

## ガスライティング犯罪：海外事情

### ～ アメリカ、カナダにおける、反ギャングストーキング活動の宣伝スピーチ～

Gang Stalking Report: Multiple Stalking Recorded Spiel, Japanese version, as of December 15<sup>th</sup>, 2005  
2005年12月15日翻訳(改版：2007年5月25日)

#### 【はじめに】

今回は、カナダにおいて反ギャングストーキング活動を行っていらっしゃいます、エレノア・ホワイトさんのお書きになった原稿の、日本語訳をお送りします。こちらの原稿は、ギャングストーキングの現状を、一般の方々に理解していただくための放送原稿であり、これを録音し、英語圏のギャングストーキング被害者の方々の集まりなどで放送する目的で使用されています。この原稿を翻訳した目的は、アメリカ・カナダにおけるギャングストーキングの現状が、日本における**ガスライティング犯罪ネットワーク**の現状と酷似しているため、この放送原稿が、日本における**ガスライティング犯罪ネットワーク**の仕組みを明るみに出すことに貢献できる文章であると判断したためです。

尚、原文のアドレスは、< <http://www.multistalkervictims.org/msspiel.htm> >になります。

翻訳におきましては、原文中の“Gang Stalking”や”Terrorist Stalking”を「ギャングストーキング」と訳しています。

それでは、エレノア・ホワイトさんによる、反ギャングストーキング宣伝活動スピーチの日本語訳です。

#### 【アメリカ、カナダにおける、反ギャングストーキング活動の宣伝スピーチ】

ギャングストーキングの近代的な原型は、KKK(クー・クラックス・クラン：KU KLUX KLAN)によって作られました。そして数世紀にわたって、自分たちには、自分たちのルールを他の人々に押し付ける権利がある、と信じてやまない数々のグループによって、その完成度を増してきました。ギャングストーキングは、ターゲットとなった人物の周囲から見た場合には、日常生活における単なる「偶然の不幸」の数々ですが、ターゲットとなった人物の人生を完全に破壊することの出来る、非常に巧妙に仕組まれた、嫌がらせ手法の1セットへと発展したのです。

「偶然の不幸」が1日のうちに何度も起こるようになり、それが毎日続くようになった日常生活がどのようなものか、ターゲットとなった人物を知っている人でさえ、想像することはできません。彼らはそこに付け入ってくるのです。

有名な犯罪者、政府諜報機関のメンバー、犯罪組織メンバー、有名な人物などといった、「重要な人物」ならまだしも、そうではない人物に対して、長年にわたり、一生にわたり、嫌がらせを延々と続ける人々がいることなど、ギャングストーキングのターゲットとなった人物の周囲の人たちは、信じる事が出来ません。明らかな理由もなく、普通の人が、24時間体制の犯罪・嫌がらせのターゲットになることなど、普通の市民の皆様であれば理解できないでしょう。

しかし、ギャングストーキングを行う理由が理解できないと言うことが、ギャングストーキングは起こっていない、と言うことを意味するものではありません。ギャングストーキングの調査を行ったデイビッド・ローソン氏は、2001年の著書である「アメリカにおけるギャングストーキング」において、アメリカ、カナダにおける、高度に組織化されたギャングストーキングの潜入調査結果をまとめています。ローソン氏の著書は、この冷酷な犯罪を明るみに出した、今世紀初の本になります。

ローソン氏の著書「アメリカにおけるギャングストーキング」では、ギャングストーキングの実行団体を、「過激派グループ」と呼んでいます。今日のギャングストーキング被害者の集まりである我々は、この「過激派グループ」と呼ばれる人々が、時に、普通の、礼儀正しい市民に見える人々であり、そういった人々がこの冷酷な犯罪に加担していると言う事実を目の当たりにしています。

ローソン氏の著書「アメリカにおけるギャングストーキング」では、この過激な人々が、どんなことでも平気で

している、公務員を装うことまでしている、ということ指摘しています。

デイビッド・ローソン氏は、ギャングストーキング加担者たち、被害者たち、それから、多くの警察官にインタビューを行っています。ここに、ローソン氏が警察官にインタビューした部分を引用いたします。

『私は、国中の警察官にインタビューを行ってきました。彼らは、国中にストーカーグループの存在することを認めています。しかし彼らは、ギャングストーキングは基本的に民事の問題だから、被害者が経済的な損害を証明しなければだめだ、と言います。それから警察官達は、言論の自由の問題と市民活動の権利の問題があるから、と言います（私は聞きたい、言論の自由が、冷酷非道な嫌がらせを黙認する言い訳になるのか、と）』

ローソン氏は続けます。

『実のところ、彼ら警察官自身も、ギャングストーキングのターゲットになることがあるのです。小さな町では、ギャングストーキングを実行するグループの人数のほうが、警察官の人数よりも多いことが多々あるからです。基本的に、警察官は、ギャングストーキングを公に認めようとはしません。ある警察官の方は、これから嵐が吹き荒れる、ギャングストーキング実行グループはとにかく増殖している、と言っていました』

ローソン氏は、彼がどのようにしてギャングストーキング実行グループと接触を持つようになったかを、こう説明しています。

『数年前のある日、私は家の中で座りながら、通信走査装置（訳注：スキャナー。周波数を変えながら通信を傍受できる）を使っていました。その時、ある女性が、ある特定の車を追跡している、と言っているのを聞きました。彼女は、その車の居場所、その車のメーカー、モデルと車両ナンバーを告げていました。数日後、同じ女性が、同じ周波数で、場所を告げながら、少し助けが必要だ、と言っていました。更に数日後、また同じ女性が、彼女が追っているという別の車の詳細を告げていました。その周波数で別の人々が話しているのを聞いていると、政府機関とは全く関係のなさそうな人々が、人を「逮捕する」話をしていたのです』

著書「アメリカにおけるギャングストーキング」の中でローソン氏は、それらのギャングストーキング実行グループを調査する事になったきっかけを説明しています。

『そのグループの人々は、彼等の活動時間の後、晩御飯に出かける話をしていました。そこで、私もそこに出かけてみました。すると彼らは、あけっぴろげに、まるで自分たちが警察官であるかのような、数々の活動の議論をしていたのです』

『本物の警察官達もそこに同席し、彼等の話を聞いていました。後で知ったことですが、警察官が同席していたことは偶然ではなかったのです』

ローソン氏は、ニューヨーク、フロリダ、カナダに移り住んだ数年間に、ギャングストーキング実行グループの活動を観察しました。ローソン氏は、ギャングストーキンググループの通信を傍受し、彼等のミーティングに出席し、さらには、彼等の実行する調査や嫌がらせの任務に、彼らと一緒に出かけました。

ローソン氏は、彼らがギャングストーキングを実行する理由を、「主義・主張によるストーキング」と定義しています。「主義・主張によるストーキング」とは、ギャングストーキング実行グループが、過去の隠されたリーダーの下に組織され、特定の「主義・主張」のために活動していると言うことです。しかしその実態は以下のようなものだと言います。

『グループのそれぞれのメンバーは、知恵遅れや、精神を病んでいる人々、自分たちが秘密諜報員であると勘違いしているような人々です』

そして、

『「主義・主張によるストーキング」は、1990年代初頭から、過激派グループによって利用されています。基本となるシステムは、KKKによって開発されたといわれており、長年の実行によって巧妙になってきています』

さらに、ローソン氏はこう書いています。

『ギャングストーキンググループのメンバー達は、ターゲットとなった人物が、彼等の抱えている問題の原因であると教え込まれています。彼等の人生が失敗している理由が、ターゲットとなった人物のせいになされているのです』

そして、典型的なギャングストーキングメンバーの勧誘（リクルーティング）方法について、こう記しています。

『ギャングストーキング実行グループのメンバー勧誘は、職業階層として底を支えているブルーカラーワーカー（肉体労働者）に対して行われます。あらゆるドアの鍵を開けられる、ビルやホテルの門番や玄関番、通常は立ち入り禁止の場所に入りにできる警備員、仕事をしながらターゲットとなった人物を一日中車などで追まわせる、特定の職種在市局員等がこれに当たります』

『ギャングストーキング実行グループのメンバーには、常に路上に存在するタクシードライバーも含まれます。さらには、通信、電気会社関係の従業員も含まれ、彼らは彼等のサービスを使ってターゲットとなった人物の生活妨害ができますし、仕事をしながら、他のメンバーとのパトロールに時間を割くこともできます』

ここで一つ指摘したいのですが、それは、ギャングストーキング実行グループのメンバーがそのグループに属している主たる理由が、彼等の自尊心の低さにある、という点をローソン氏が記していることです。ギャングストーキング実行グループのメンバーは、職場でうだつが上がらず、社会的にも恵まれない人々が多いということです。一方で、メンバーの中には、社会的にはうまくやっており、その職種でしかできない工作に魅力を感じている人々も存在します。この良い例が、電話やケーブル会社の社員で、彼等の選んだ人物の重要な会話を盗聴したり、邪魔したりすることの出来る人々です。

ここで、ローソン氏が直接、ギャングストーキング実行グループのメンバー自身から聞いた台詞をご紹介します。

『俺たちは、警察みたいなもんさ。警察よりも偉いけどね』

『私たちは、警察を助けてる市民団体よ。そいつ（ターゲットとなった人物のこと）が、過去にやってきたことを、この町でしでかさないようにしているのよ』

（実際のギャングストーキング被害者には、過去に社会的な問題を起した人はいません。ギャングストーキング実行グループのリーダーは、こういった嘘によって、グループに動機を与えているのです）

『奴ら（ターゲットとなった人物のこと）がなにをしようが関係ないさ。俺たちから逃れることは出来ないんだからね』

ギャングストーキング実行グループのメンバーは、自分たちのことをこう言います。

『俺たちが何者かって？あんたが病気になったら、救急車であんたを病院まで運ぶのは俺たちさ。あんたの家が火事になったら、消防車で駆けつけて火を消し止めてやるのは、俺たちさ。俺たちは警備員さ。あんたのことを夜通し守ってやってるんだぞ。俺たちのおかげで、あんたは電気が使えて、電話がかけられて、ネットワークが使えるのさ。俺たちは門番さ。鍵を持ってるんだぜ。あんまり俺たちに面倒かけないほうがいいんじゃないか？』

「アメリカにおけるギャングストーキング」でローソン氏は、その著書の何箇所かで言及されているように、ギャングストーキング実行グループの活動の拠り所となっている、「主義」や「主張」は、グループを結束させるための単なる「言い訳」にしか過ぎないという結論を導き出しています。彼らがギャングストーキング実行グループに属する本当の動機は、そのグループから与えられる「力」に対する依存意識なのです。

「主義」や「主張」があると言うことは、メンバーの活力や正当性を増大させますが、ローソン氏によれば、ギャングストーキング実行グループのメンバーである人々は、彼等の活動を他のメンバーが評価してくれるか、グループが彼らを受け入れてくれるかどうか、ということに最も気にしているとのことでした。

ギャングストーキング実行グループが結成されると、そのグループは、リーダーによって運営がなされます。「アメリカにおけるギャングストーキング」では、リーダーという役割について、こう書かれています。

『リーダーがこういった経歴を持っているのかについては、ほとんどの場合、他のメンバーには秘密にされています。リーダー達は、「誰も知らない場所」からやってきた人々なのです。そして、リーダー達の真の人物像については、情報が得られないことが多いのです。このことは、リーダーを、そのグループの中で、実際の人物よりも大物として見えるよう、仕向ける基本となっているのです』

ギャングストーキング実行グループの資金源はどうなっているのでしょうか？ローソン氏は、メンバーに支払われる報酬は少ない、と言っていますが、多くのギャングストーキング被害者の証言から考えますと、彼等の行っている嫌がらせのためには、実に多額の資金が必要であることがわかります。例えば、こういった場合です。

『ギャングストーキング実行部隊の資金源は豊富にある。ターゲットとなった人物の住居付近の建物を借り上げることもできる。ターゲットが国中を旅行すれば、どこに言っても加担者たちに付回される。ターゲットが飛行機に乗れば、どこに到着しようが、ギャングストーキング実行グループのメンバーに出会うことになる。ギャングストーキング実行グループのメンバーが、ターゲットの旅行プランを知っていれば、おそらく知っている事が多いと思うが、彼らはターゲットの乗る飛行機に同乗してくる』

ローソン氏は、ギャングストーキング実行グループの資金源についても調査を行いました。

『ギャングストーキングの実行においては、「企業」がその資金を提供し、企業に敵対する人物や、邪魔になると考えられる人物に対してストーキング行為を行わせている、という事実があります。ギャングストーキング実行グループは、それらの企業にとって、「非公式の軍隊」なのです。国によっては、反体制者を抹殺していますし、国によっては、反体制者は投獄されています。アメリカ合衆国においては、企業や業界の脅威になるような人物、例えば、告発者や活動家など、そういった人たちが「非公式の軍隊」のターゲットになるようです』

ここで一つコメントさせていただきます。ギャングストーキング実行グループのリーダーの資金源に関しましては、おそらく、違法薬物販売による利益も絡んでいます。

ローソン氏は、その著書「アメリカにおけるギャングストーキング」の中で、ギャングストーキング実行グループは、リーダーによって指定されたターゲットに対する嫌がらせを行うだけでなく、「復習サービス」等として活動し、資金を持つ人々に雇われる場合もある、と何度も指摘しています。

次に、ローソン氏の調査した、ギャングストーキング実行グループの典型的な活動を見てみます。

『ギャングストーキング実行グループの主な特徴として、大規模な人数のグループであることが挙げられます。ターゲットとなった人物は常に付回されますが、多くの場合、同一人物による付回しではなく、違う人々が現れます』

『ギャングストーキング実行グループの多くは、数百人規模のメンバーから構成されるグループです』

『ギャングストーキングを、テロリストによるストーキングと表現する方々がいらっしゃいます。彼等のストーキングは、個々のメンバーによってばらばらに行われるものではありません。彼らは、住居侵入、所有物に対する損害、暴行、時には抹殺まで、組織的かつ計画的な手段を実行します。ターゲットとなった人物の子供に対する嫌がらせは、ターゲットに精神的プレッシャーを与える方法として利用されます』

『国中の消防士、警察組織までもが、長い歴史の中で、ギャングストーキング実行グループを支援してきました。警告灯を光らせ、サイレンを唸らせながら走り回る消防車の一団が、ギャングストーキンググループの車列に見受けられます。そのグループの人々は、そういった車列が町に入ってくるとエンジン音で挨拶をします。消防士、公務員、公共団体職員の参加は、グループの人々に、正当性と権力という幻想を与えることができます』

この放送では、アメリカとカナダにおける、ギャングストーキング実行グループの日々の活動について、デイビッド・ローソン著の「アメリカにおけるギャングストーキング」より、引用をおこなっております。

『ギャングストーキング実行グループは、時に、彼らにとって都合の良いターゲットを選定することがあります。こういった場合には、ターゲットとなる人物に選定される特別な理由はなく、彼らは単にターゲットとして都合の良い人物を選んでいるのです。この場合のターゲットに選定される人々は、その人の周囲の友人や家族と常に関係を持っている人々よりも、一匹狼タイプ、つまり、ギャングストーキング行為に無防備である人々が選ばれるので

す』

『ギャングストーキング実行グループは、ターゲットとなった人物に関する噂を広げるための、広報人脈を持っています。ギャングストーキング実行グループの集まりの中に、地方テレビ局やラジオ局の車両が参加していることは、珍しいことではありません』

『ギャングストーキング実行グループは、その活動拠点を固めるために、ターゲットとなった人物の近隣住民の協力を得ようとしています。多くの地域では、彼らは近隣住民の協力を、脅迫によって得ることができます。協力を拒否した住民は、彼等の嫌がらせのターゲットとなり、反対した住民の家族までもが嫌がらせを受け、その住民の家や車に対する嫌がらせも行われます』

この放送では、アメリカとカナダにおける、ギャングストーキング実行グループの日々の活動について、デイビッド・ローソン著の「アメリカにおけるギャングストーキング」より、引用をおこなっております。

『ギャングストーキング実行グループは、協力者を取り込む際に、愛国心のアピールを行ったり、覚せい剤、友情、住宅の修復工事、タクシー代など、様々なものの提供をしたりします。いくつかのケースでは、ターゲットとなった人物の家の鍵さえ提供します』

『ターゲットとなった人物への監視は、24時間体制で毎日実施されます。ターゲットとなった人物が外出する際には、携帯電話や商用ラジオなどで、グループメンバーに通知が行われます。その近辺をパトロールし、警察官を見張っているようなメンバーや、その近辺で車に乗っているメンバーは、その場所に急行し、ターゲットの追跡活動を始めます』

『商用ラジオが幅広く利用されている小さな町では、ギャングストーキング活動が、その町にあるグループの娯楽になっています。ギャングストーキンググループの使用している電波を受信できる人であれば、誰もが参加できる娯楽なのです』

『ギャングストーキング被害者の中には、朝起きて、部屋の明かりをつけたと同時に、商用ラジオからアナウンスされた、という人々もいます』

これは、別の言い方をすれば、夜間シフトのメンバーによって夜通し監視されていた、ということになります。

この放送では、アメリカとカナダにおける、ギャングストーキング実行グループの日々の活動について、デイビッド・ローソン著の「アメリカにおけるギャングストーキング」より、引用をおこなっております。

『典型的な集合住宅の場合、ギャングストーキング実行グループのメンバーは、ターゲットとなった人物の部屋の真上の部屋、真下の部屋、及び両サイドの部屋を借りたり、又貸ししてもらったり、入室をさせてもらったり、とすることを試みます。また、彼らは、ターゲットの車も、監視の対象にします。彼らがターゲットの住居の周りの部屋を包囲すると、たいていの場合、ターゲットの行動に応じて、騒音が聞こえるようになります。例えば、ターゲットがトイレを流すタイミングで、車のクラクションが聞こえたり、電動工具の音や、釘を打ち付けるような音が聞こえたりします』

『ギャングストーキング実行グループのメンバーは通常、私たちは警察に協力している市民グループであり、特定の人物の動向を把握しようとしているだけだと言い、適当な理由をでっち上げます。彼らは、まるで警察の調査ファイルのような、ターゲットとなった人物の写真入りファイルを持っており、こういった幻想に拍車をかけています』

『通常、ターゲットとなった人物が一人にいるときで無ければ、あからさまな嫌がらせは行われません。ターゲットが第三者と一緒にいる場合、ギャングストーキング実行グループのメンバーは、ターゲットの周囲を取り囲んではいますが、その存在をアピールしてはきません。ギャングストーキング実行グループのメンバーに、それほど酷いことをされたことはないと言う被害者の方も多のですが、そういった被害者の方の場合は、被害者が完全に一人であることが少ないためです』

『ギャングストーキングのターゲットとなった人々の中には、組織的に嫌がらせをされていることに気づいていない人々もいます。こういった人々は、単に、失礼な人間が多い世の中になった、と思っています。あからさまなアメリカ、カナダにおける、反ギャングストーキング活動の宣伝スピーチ

嫌がらせを経験していないターゲットの場合でも、家宅侵入、小物が盗まれる、家の中、車の中や職場が荒らされるなどの、別のタイプの嫌がらせを受けていることがあります』

『あからさまな嫌がらせは、目撃者のいないところで行われます。その目的は、ターゲットとなった人物を、家族や友人から引き離すことにあります。ターゲットとなった人物は、自分の周囲で起こっているあからさまな嫌がらせの数々を、家族や友人に話すでしょう。しかし家族や友人でさえ理解することが出来ないような嫌がらせですから、家族や友人は、ターゲットとなった人物がおかしくなってしまったのではないかと、思うようになります』

この放送では、アメリカとカナダにおける、ギャングストーキング実行グループの日々の活動について、デイビッド・ローソン著の「アメリカにおけるギャングストーキング」より、引用をおこなっております。

『ギャングストーキング実行グループのメンバーは、ギャングストーキングターゲットとなった人物が何処に行こうとも、徒歩による付回しを行います。公共の場所であれば何処にでも現れますし、病院や職場など、公共の場所でもなくとも、その場所に侵入しようとします』

これに関する事実として、ギャングストーキング実行グループが、ターゲットとなった人物の同僚を協力者に仕立て上げることが多くあり、ターゲットに対する嫌がらせは、職場においても継続されています。

『ギャングストーキング実行グループのメンバーは、ターゲットとなった人物の持っている、職場における人間関係、私的な人間関係、あらゆる人間関係を壊しにかかります。多くの場合、匿名の人物がターゲットに関する風評操作を行い、ターゲットとなった人物の、社会的人物像の破壊が工作されますが、ターゲットをよく知る人たちには、あまり真剣に受け止められません。この工作は、ターゲットのことを深く知らない人々には有効です』

良く利用される風評操作として、小児愛者（ロリコン）であるとか、売春婦であるとか、麻薬の売人であるといった、言いがかりがあります。

『仕事関係でも、ターゲットの社会的人物像破壊工作は行われます。ターゲットの仕事が、お客様に接する仕事であれば、お客様達から、ターゲットに対する非難の嵐が吹き荒れます。ターゲットが不動産業者であれば、有望な不動産情報が多数舞い込み、時間を浪費させられた挙句に、誰も契約をしない、ということが起こります』

この放送では、アメリカとカナダにおける、ギャングストーキング実行グループの日々の活動について、デイビッド・ローソン著の「アメリカにおけるギャングストーキング」より、引用をおこなっております。

『よくあるギャングストーキングの手口に、ノイズキャンペーン（音による威嚇）があります。ギャングストーキング実行グループのメンバーは、ターゲットとなった人物の住居前、仕事場の前で、車のクラクションを鳴らし、タイヤのスキール音を鳴らすなど、ありとあらゆる騒音を発生させます』

『また、ギャングストーキング実行グループのメンバーは、ターゲットとなった人物の居場所の周囲の建物に侵入し、騒音を立て始めます。多くの場合、ターゲットが家の外に出た際や、窓を開けたときに騒音が聞こえるようになります』

『ギャングストーキング実行グループのメンバーは、様々な、妙な理由を考え出し、ターゲットとなった人物の部屋のドアを頻繁にノックします』

『集合住宅の場合、ターゲットとなった人物の部屋では、真夜中に、真上の部屋や、真下の部屋、そしておそらく両隣の部屋から、壁を叩く音、水の流れる音、トンカチで叩く音等が聞こえるようになります。ギャングストーキング実行グループのメンバーは、その行為が非難されるまで、彼等の「仕事」をこなし続けます』

『車に関係した手口としては、例えば、ターゲットの車が駐車場から出られないようにブロックする、ターゲットの運転中に、周囲を低速走行の車に囲まれる、等があります。』

ギャングストーキング実行グループのメンバーが、除雪作業の請負業者と結託し、ターゲットの家と仕事場の目の前で、慢性的な除雪問題を作り出し、ターゲットが悩まされることもあります。

『ギャングストーキング実行グループのメンバーが決まって行うのは、ターゲットとなった人物の車を監視し、

その車のタイヤを傷つけたり、塗装を傷つけたり、ナンバープレートを盗んだり、といった工作です。通常、彼らは、ブレーキホースを切ったりするなどの、致命的な破壊工作は行いません。ただ、期間をかけてエンジンオイルを少しずつ抜いたり、不凍液を抜いたりします』

『集合住宅の場合、何者かが集合住宅内の部屋間を移動し、上の階や下の階から、ターゲットとなった人物の移動に伴って騒音を立てることは珍しくありません。』

これを行うためには、空港の保安用に利用されているような、業務用の壁越しに利用できるレーダー等が必要ですが、お金さえ出せば、一般人がこういった機器を買うことは可能です。

この放送では、アメリカとカナダにおける、ギャングストーキング実行グループの日々の活動について、デイビッド・ローソン著の「アメリカにおけるギャングストーキング」より、引用をおこなってまいりました。

現状では、ギャングストーキング被害を訴える人々に対する司法制度の対応は、被害者が精神病であるというレッテルを貼り、ギャングストーキング問題が無かったことにしなさい、という対応です。この対応自体が、公務員達が守ると約束しているはずの法規に反した対応であり、犯罪行為そのものです。彼ら公務員は、本来の仕事をしていません！

一般市民の皆さん、皆さんには、ギャングストーキング犯罪を明るみに出し、阻止する力があるのです。警察官達に聞いてみるだけでよいのです。この急増している犯罪にどう対処していくつもりなのかと。皆さんにはその活動を行う力があるのです。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

#### 【 おわりに 】

私が、[モビング](#)、[ガスライティング](#)、及びその[派生手口の数々](#)について知りえたきっかけは、エレノアさんのサイトでした。「[ガスライティング犯罪：私のケースについて](#)」でもお伝えしているように、映像、音声、通信記録等に残る数々の事実が、[モビング](#)、[ガスライティング](#)、及びその[派生手口の数々](#)と全く一致します。

一方で、インターネットにおける検索結果では、英語による報告件数よりも日本語による報告件数のほうがはるかに多いという事実も存在するため、AGSASサイトで指摘しています「[集団ストーカー](#)」という用語を使用した茶番劇と同じような手口が英語を使用して行われている可能性も否定できません。

2005年12月15日 戸崎 貴裕  
(改版：2007年5月25日)